

# 提 案 の 概 要

施設名：名古屋市西児童館

団体名：名古屋市西区社会福祉協議会

## 1 管理運営全般について

### ①施設管理運営の基本方針等

- 1 区社会福祉協議会として、児童館を管理・運営してきたこれまでの実績と、地域福祉活動の中で培ってきたノウハウや地域住民・団体・関係機関とのネットワークを活かし、市民が利用したくなる児童館を目指します。
- 2 区社会福祉協議会が指定管理者となる複数の児童館と合同で社会福祉協議会のスケールメリットを活かした一体的な取り組みを行い、児童館の役割を発信します。（児童館シンポジウム in 名古屋〈仮〉）

### ②管理運営体制（職員配置及び人材の確保・育成計画等）

- 1 経営の効率化およびサービス向上の観点から、施設運営の経験を積んだ現有の職員と、各事業における必要なスキルを身につけた職員を配置します。  
館長 1 名、事務職員 1 名、児童の遊びを指導する者 2 名の常勤職員と、留守家庭児童クラブ支援員 2 名を配置し、専門性を活かした質の高い施設運営のための体制を整えます。
- 2 市社会福祉協議会が一括して人材の募集・採用を行うというスケールメリットを活かして、多様な人材を確保し、適材適所の職員体制を整えます。
- 3 市社会福祉協議会と協力して、他館（他区）との連絡会や合同研修を実施することで、お互い切磋琢磨でき、スキルアップにつながる人材育成の環境を作ります。

## 2 事業運営の実施計画について

### ①子ども育成活動

- 1 児童館だからこそできる、年齢を超えた子ども同士の育みあい、さまざまな遊びや遊び場提供による自主的なあそびの展開を通して、自己肯定感を持ったたくましく思いやりのある子どもの育成を目指します。  
（自主企画行事・マイクロなごや・チャレンジコーナー・ふれあい企画等）
- 2 利用の多い中高生のナイト児童館に力を入れ、居場所づくりから、さらに発展させて寺子屋学習塾や将来への自分探し、青年期へのステップとなるような事業展開を行います。（ナイト児童館での学習・カフェタイム・中高生企画・社会人の体験を聞く等）
- 3 中学生の学習支援事業で、不登校児、発達障がい児、生活保護家庭への適切な配慮・支援を行っていくと共に、学習支援の充実を目指します。

## ②子育て支援活動

- 1 区社会福祉協議会が事務局となり運営している、子育て支援会議のネットワークを最大限活用して、区内全域の子育て支援拠点としての役割を積極的に果たしていきます。  
(にしっこ広場「もこもこ」の週1回の開催・子育て情報の発行・虐待早期発予防等)
- 2 地域の子育てサークル、小学校、子ども会ボランティアとの協働による、移動児童館を今まで以上に充実し、庄内川以北も含め区内全域での実施により、地域をつなぐサポーターとしての役割をはたしていきます。  
(移動児童館：コミュニティセンター・トワイライトスクール・地区会館等)
- 3 子育て中の親子のニーズを的確につかみ、児童館にきて楽しく活動したり交流したりできる場と企画を提供します。  
(クラブ活動・乳幼児専用室の開放・子育て応援講座・室内遊園等)

## ③地域福祉促進活動

- 1 区社会福祉協議会が長年培ってきた地域のさまざまな方々とのつながりを活かし、地域の方たちとふれあいのある児童館を目指します。  
(区民まつり・生涯学習センターまつり・地域の高校、大学生・高齢者との交流・行事の地域開放等)
- 2 児童館の特性を生かし、ボランティアの育成支援、体験学習等を積極的に行い、子ども達と地域をつなぐ役割を担います。  
(子育てひろば見守りボランティア、子ども会ボランティア、地域ボランティア等)

## ④留守家庭児童健全育成事業

- 1 児童館の特徴を生かし、幅広い年齢層との交流や、豊かな体験、地域のさまざまな方々との連携の中で、行動力、自主性、協調性のある子どもを育てます。  
(館行事への参加・館利用者との交流・社会見学・地域行事への参加等)
- 2 支援員の専門性にもとづいた指導・援助、安全で安心な環境設定の中で、一人ひとりが個性を発揮でき、自己肯定感をしっかり育めるよう努めます。
- 3 障がい児を含めた集団作りを行い、児への理解・援助を深めると共に、保護者の子育て支援を積極的に担います。

### 3 収支計画について

#### ①管理運営にかかる費用等

##### 1 人件費

安心・安全・安定的な施設運営と児童館の設置目的の達成のためには、人材の定着によるノウハウの蓄積と継続的な育成は不可欠であるという視点から、有能な人材を安定的に確保するための人件費として、経営の効率性を確保しつつ必要な金額を積算します。

##### 2 物件費

- (1) クラブや講座に専門講師を採用し充実を図るとともに、ボランティア講師も積極的に依頼し、限られた予算の中で更なる事業の充実を目指します。
- (2) 冷暖房、照明等の電気代をはじめ、水道光熱費については、利用者に対して快適な環境をつくることを最優先に考えて使用し、使わないスペースは節電に努めます。
- (3) 施設修繕費について、利用者に安全で快適な空間を提供できるよう計画的に執行します。
- (4) 事業実施に際し、材料費や教材費等の参加費がかかる場合は、できるかぎり低額に設定し参加者への負担を軽減することで、どなたでも参加しやすいよう配慮します。

#### 【4年間平均収支予算額】

単位：千円

区 分	金 額	内 容
人件費	20,652	職員4名分給与、諸手当、共済費等
管理費	4,044	光熱水費、印刷費、設備点検等委託費、消耗品費等
事業費	3,753	講師・ボランティア謝金、行事経費等
留守家庭児童クラブ	5,019	支援員2名、施設管理者の賃金及び社会保険料等
中学生の学習支援	1,799	スタッフ賃金・謝金・交通費等
小規模修繕費	600	施設修繕費
ボランティア派遣費	441	ボランティア派遣・育成費
合 計	36,308	